

仕 様 書

1. 委託業務題目

地元TV放送やWebを通じた情報提供事業（テレビ広報）

2. 委託業務の目的

文部科学省は将来のエネルギーの安定供給や原子力発電施設等から生じる放射性廃棄物の低減等を目的として核燃料サイクルの研究開発を推進しており、これに基づき独立行政法人日本原子力研究開発機構が福井県敦賀市に「もんじゅ」を設置し、研究開発を実施している。

文部科学省は当該研究開発を推進する立場として、特にもんじゅが立地している地域の住民に対して、新しいエネルギー基本計画やもんじゅの研究開発のあり方・現状について適切に情報を提供するとともに、当該地域の住民が原子力や「もんじゅ」に関して知りたい情報をアンケート調査等により把握し、これに対してきめ細やかに情報提供を行い、地域の住民の知識の普及等を図ることを目的とする。

3. 委託業務の内容

(1) テレビ番組制作・放映

受託者は次の点を留意して文部科学省と調整しつつ、テレビ番組を制作・放映すること。

ア) 新規番組の制作

- ① 他の業務「地元地域の新聞を通じた情報提供事業（新聞広報）」の受託者が実施したアンケート結果などを踏まえ、「もんじゅ」の現状や研究計画等のテレビ番組を制作すること。
- ② 制作するテレビ番組は、3分程度×3本とし、中高生・婦人向けに科学技術・放射線リテラシー向上に配慮し、比較的関心の低い方にも理解できるようにCG等を利用するとともに、用語の使い方に配慮した汎用性のある番組とすること。
- ③ また、①を踏まえつつ、原子力や「もんじゅ」に対する地元住民の理解増進につなげるのに適した内容を検討すること。例えば原子力の平和利用（電力エネルギー、産業・医療など放射線利用）、世界・日本の電力事情、核燃料サイクルの位置付け、高速増殖炉と従来の原子炉の違いや期待される成果、「エネルギー基本計画」等に基づくもんじゅの役割、「もんじゅ」改革の状況や安全対策、研究開発体制などから、時々トピックスも交えた番組構成とすること。
- ④ 制作した番組は、再利用が可能なものとし、再利用期間は平成29年3月31日以上とすること。

イ) 過去に制作した番組の修正

過去3年間（平成24年度～平成26年度）に制作・放映した3分番組30本、10分番組2本、15分番組4本の中から、3分番組は10本以上、10分・15分番組はそのうち1本以上を選びすぐり必要に応じて軽微な修正を行うこと。

ウ) 番組の放映

- ① 新規に制作した3分番組3本、上記イ)で選りすぐった過去に制作した15分番組1本及び3分番組のうち、さらに選りすぐった5本について、それぞれ原則として、週2回連続する日で、新規制作番組は計4回、過去制作番組は計2回放映するこ

ととし、放映期間については、過去制作番組は平成27年7月頃から10月頃、新規作成番組は平成27年10月頃から平成28年1月頃とすること。放送時間帯は、土曜日or日曜日午後の「特B」（14:00～18:00）タイムまたはそれと同様以上の広報効果のある時間帯で実施することとし、放送期間を通じて所定の時間枠を確保すること。（放映は福井県下をエリアとするテレビ放送局を通じて行うこと。）

- ② 広報効果を高める観点から、新規に制作した番組及び上記イ)で選りすぐった番組すべてについて、インターネットによるストリーミング配信が可能となるようホームページを立ち上げ配信する（放送終了直後から実施期間終了後原則として3ヶ月間以上）とともに、視聴者に番組関連情報などを提供すること。または、同等以上の効果を持つ方法で再放送すること。

（2）意見交換会採録映像制作・配信

受託者は次の点を留意して文部科学省と調整しつつ、意見交換会採録映像を制作・配信すること。

- ① 福井県内で文部科学省が主催する意見交換会の終了後、意見交換会、ブース展示等の様子を紹介し、あわせて「もんじゅ」の現状等をテーマとした採録映像を制作すること。
- ② 制作する配信映像は、15分程度×2本とすること。
- ③ 制作した映像をDVDにまとめ、行政機関、大学等の教育機関、企業や研究機関等のニーズ等に応じて、提供できるようにすること。
- ④ 立ち上げたホームページのインターネットにストリーミング配信すること（制作直後から実施期間終了後原則として3ヶ月間以上）
- ⑤ 意見交換会の取材にあたっては、意見交換会を運営する者と事前に十分協議を行い、意見交換会の運営に支障をきたさないようにすること。

（3）業務実施に関する評価

- ① 3.（1）（2）の広報効果を把握するため。地元住民の当該広報の認知度、理解度、業務における実施方法などについてアンケートを実施し、地域ごと、年齢層ごと、性別等に分類したグラフ等で作成するなどし、これを取りまとめたものをアンケート実施後1か月以内に文部科学省へ提出すること。
- ② 別添の業務評価に従い、他の業務「地域住民の意識を踏まえた双方向の意見交換会の実施（広聴・広報事業）」で設置する業務評価委員会の評価を受けるものとし、受託者はこの委員会の運営に協力する。

（4）その他

本業務を実施するにあたっては、原子力や「もんじゅ」を取り巻く国内外の情勢を見つつ、その状況に適した内容及び実施時期となるよう留意するとともに、文部科学省から変更等の要請があった場合には、可能な限りこれに従うこと。

また、他の業務「地域住民の意識を踏まえた双方向の意見交換会の実施（広聴・広報事業）」、「地元地域の新聞を通じた情報提供事業（新聞広報）」で制作された広告物（チラシ、パンフレット、新聞等掲載記事など）について、各業務の受託者から電子データによる提供があった場合は、本業務で立ち上げたホームページのインターネットに掲載する（提供の日から実施期間終了後原則として3ヶ月間以上）ことのほか、本業務を含むこれら業務の広報効果を高める観点から、ホームページの有効活用に努めること。

(5) 提出物

- ・ 次のものを提出すること。
 - 制作したテレビ番組
 - 文部科学省保存用DVDディスク 1枚
 - 再利用用DVDディスク 2枚
 - 制作したホームページのデータCD 1枚
 - 業績評価報告書 1部 (A4版)

4. 委託業務実施期間

平成27年6月1日から平成28年3月31日

5. 応札者に求める要求要件

(1) 要求要件の概要

- ① 本委託業務に係る応札者に求める要求要件は、「(2) 要求要件の詳細」に示すとおりである。
- ② 要求要件は必須の要求要件と必須以外の要求要件がある。
- ③ 「*」の付してある項目は必須の要求要件であり、最低限の要求要件を示しており、技術審査においてこれを満たしていないと判断がなされた場合は不合格として落札決定の対象から除外される。
- ④ 必須以外の要求要件は、満たしていれば望ましい要求要件であるが、満たしていなくても不合格とならない。
- ⑤ これらの要求要件を満たしているか否かの判断及びその他提案内容の評価等は、技術審査委員会において行う。なお、総合評価落札方式に係る評価基準は別添の総合評価基準に基づくものとする。

(2) 要求要件の詳細

総合評価基準の「評価項目及び得点配分基準」と同様。

6. 無償貸付を行える物品

なし

7. 守秘義務

受注者は、本委託業務の実施で知り得た非公開の情報を如何なる者にも漏洩してはならない。

受注者は、本委託業務に係わる情報を他の情報と明確に区別して、善良な管理者の注意をもって管理し、本委託業務以外に使用してはならない。

8. その他

この仕様書に記載されていない事項、または本仕様書について疑義が生じた場合は、文部科学省と適宜協議を行うものとする。

本委託業務の実施にあたっては、会計に関する法令に定めるほか、科学技術・学術政策局、研究振興局及び研究開発局委託契約事務処理要領により適切に実施しなければならない。

業務評価について

【評価の目的】

本事業が、より効率的・効果的となる事業の改善を図るため、業務レベルでの客観性を確保した定量的・定性的な総合評価を実施する。

【業務評価委員会の設置】

業務評価の客観性を確保するため、原子力、コミュニケーション、財政・運営等の外部有識者からなる業務評価委員会を設置する。

そのうち1名を委員長とし、評価・意見等の調整を図る。

【評価の実施段階】

1. 中間評価

○業務計画に照らし、中間となる時期に実施する。

○業務の実施状況の把握・分析を行い、計画の妥当性、進捗状況、成果目標の達成見込み、促進・阻害要因などについて検証する。

○必要に応じて、業務計画・業務評価の実施に係る見直しについて意見を行う。

2. 事後評価

○実施対象に対する直接的な業務実施の後、業務実施期間内に実施する。

○業務の実績の把握・分析を行い、促進・阻害要因を含め、評価の視点から定量的・定性的に評価し、その評価を踏まえ総合的に評価する。

○評価結果から目的、成果、方法など業務の今後のあり方について、評価結果の活用・反映による改善の検討に資する意見を行う。

【評価の視点】

1. 妥当性

原子力や「もんじゅ」等の理解促進策としての整合性やニーズに対する必要性、問題への解決策としての適切性などについて評価

2. 有効性

成果目標の達成度について評価

3. 効率性

成果目標の達成に対する手法として、実施内容と成果の関係における経済性・適正性について評価

4. 印象性・持続性

地域住民等に対するアンケート調査結果の動向、原子力や「もんじゅ」についての知識の理解促進及びより高度な知識への興味・関心の波及など、

発現した効果について評価

【評価の指標】

目的・成果の達成度や効果の発現に向け、設定した評価指標により、継続的に測定し、実績にかかる一貫性のある情報を収集する。

評価指標は、統一的事項及び業務の内容に応じた指標を設定する。

《統一的事項》

1. 原子力や「もんじゅ」等の基礎的な知識の理解促進
2. 原子力や「もんじゅ」等に関する知識の理解促進の実施・手法
3. 原子力や「もんじゅ」等に関する知識の理解促進実施の持続
4. 原子力や「もんじゅ」等に関するより高度な知識への興味・関心の波及

【評価の方法】

事後評価では、評価の視点それぞれについて「a b c」の3段階で個別に評価し、その結果をもとに「A B C D」の4段階で総合的に評価する。

個別評価は、以下の基準により実施する。

評価は、委員それぞれが実施し、取りまとめた結果、最も多い評価を評価結果として採用する。

なお、評価結果が同数となった場合には、委員会にて検討の上、委員長が裁定して評価結果を決定する。

1. 妥当性
 - a：整合性、必要性、適切性などが認められる。
 - b：整合性、必要性、適切性などに一部問題がある。
 - c：整合性、必要性、適切性などに重大な問題がある。
2. 有効性
 - a：成果目標の100%以上
 - b：成果目標の80%以上100%未満
 - c：成果目標の80%未満
3. 効率性
 - a：計画の80%以下
 - b：計画の80%超100%以下
 - c：計画の100%超
4. 印象性・持続性
 - a：理解促進、興味関心、波及などの効果が認められる。
 - b：理解促進、興味関心などの効果が認められる。
 - c：理解促進や興味関心の可能性などの効果が認められる。

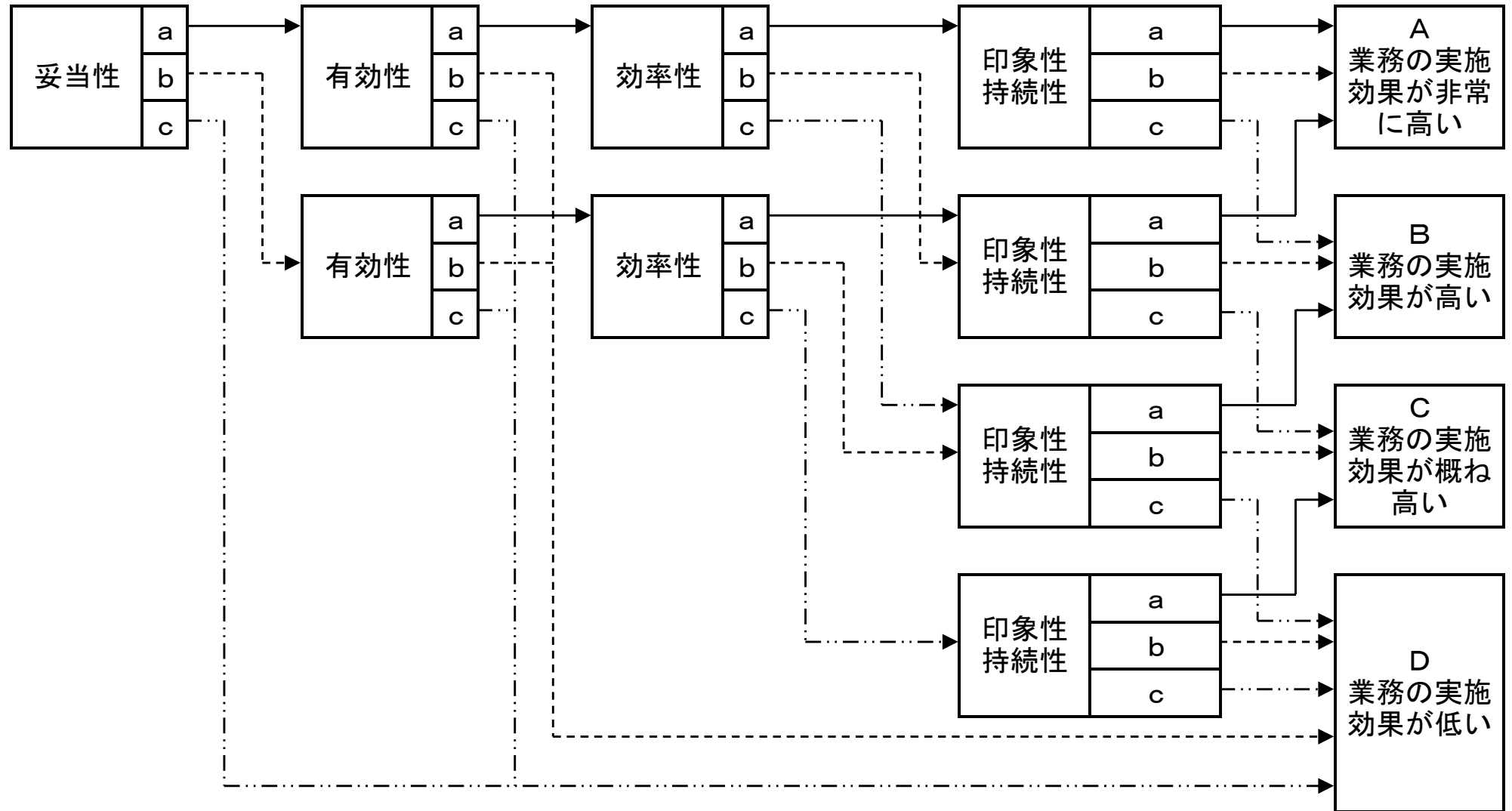
総合評価は、上記の個別評価の結果をもとにフローチャートに従って実施する。

フローチャートは、別添 1 「業務評価 総合評価フローチャート」を参照。

【評価の手順】

1. 業務評価委員会（中間評価）を開催
 - 委員に対して、中間評価書（様式 1）により、業務実施状況・計画などを説明するとともに、中間評価書の承認を得る。
 - 委員会の承認を得た中間評価書を委員会の議事録と合わせて文部科学省に提出する。
2. 業務評価委員会（事後評価）の開催
 - 委員に対して、事後評価書（様式 2）、その他資料により、業務実績や自ら行った個別評価の結果などを説明すること。
 - 委員の評価シート（様式 3）を取り纏め総合評価シート（様式 4）を作成して委員長の了解を得るとともに、評価結果や意見を取り纏めて業務評価報告書（様式 5）を作成する。
3. 業務評価報告書の提出
 - 作成した業務評価報告書について、委員の承認を得た上で、業務実績報告書と合わせて文部科学省に提出する。

業務評価 総合評価フローチャート



中間評価書

1. 委託業務の題目
2. 委託業務の実施機関
3. 委託業務の実績と実施内容の確認
 - 3-1 委託業務の実施状況
 - 3-2 経費の執行状況
 - 3-3 成果目標の達成状況
 - 3-4 評価指標の達成状況
 - 3-5 効果の発現状況
4. 各視点の評価の結果
 - 4-1 妥当性：
 - 4-2 有効性：
 - 4-3 効率性：
 - 4-4 印象性・持続性：
5. 委託業務の実施における外的要因
 - 5-1 効果の発現を促進した要因
 - (1) 計画の内容に関すること
 - (2) 実施の内容に関すること
 - 5-2 効果の発現を阻害した要因
 - (1) 計画の内容に関すること
 - (2) 実施の内容に関すること
6. 中間評価の結果
7. 委託業務の実績、今後の計画の実施に対する意見
8. 委託業務の評価の今後の計画

【添付資料】

・業務計画書

《その他、実績や分析などを示す資料を添付。》

事後評価書

1. 委託業務の題目
2. 委託業務の実施機関
3. 委託業務の実績
 - 3-1 委託業務の実績
 - 3-2 経費の実績
 - 3-3 成果目標の達成状況
 - 3-4 評価指標の達成状況
 - 3-5 効果の発現状況
4. 各視点の評価の結果
 - 4-1 妥当性：
 - 4-2 有効性：
 - 4-3 効率性：
 - 4-4 印象性・持続性：
5. 委託業務の実施における外的要因
 - 5-1 効果の発現を促進した要因
 - (1) 計画の内容に関すること
 - (2) 実施の内容に関すること
 - 5-2 効果の発現を阻害した要因
 - (1) 計画の内容に関すること
 - (2) 実施の内容に関すること

【添付資料】

- ・ 業務計画書
- ・ 中間評価書

《その他、実績や分析などを示す資料を添付。》

業務評価 評価シート

委託業務の題目「」

評価の視点	評価	コ メ ン ト
妥当性		
有効性		
効率性		
印象性・持続性		

評価委員氏名： _____

業務評価 総合評価シート

委託業務の題目「」

評価の視点	評価結果	【評価委員氏名】	【評価委員氏名】	【評価委員氏名】
		原子力	コミュニケーション	財政・運営
妥当性				
有効性				
効率性				
印象性・持続性				

総合評価	
------	--

業務評価委員長：_____

業務評価報告書

1. 委託業務の題目
2. 委託業務の実施機関
3. 委託業務の実績
 - 3-1 委託業務・経費の実績
 - 3-2 成果目標・評価指標の達成状況
 - 3-3 効果の発現状況
4. 各視点の評価の結果
 - 4-1 妥当性：
 - 4-2 有効性：
 - 4-3 効率性：
 - 4-4 印象性・持続性：
5. 委託業務の実施における外的要因
 - 5-1 効果の発現を促進した要因
 - 5-2 効果の発現を阻害した要因
6. 事後評価の結果《総合評価：》
7. 委託業務の実績に対する意見
8. 委託業務の今後のあり方についての意見

【添付資料】

- ・ 業務計画書
 - ・ 中間評価書
 - ・ 事後評価書
- 《その他、実績や分析などを示す資料を添付。》